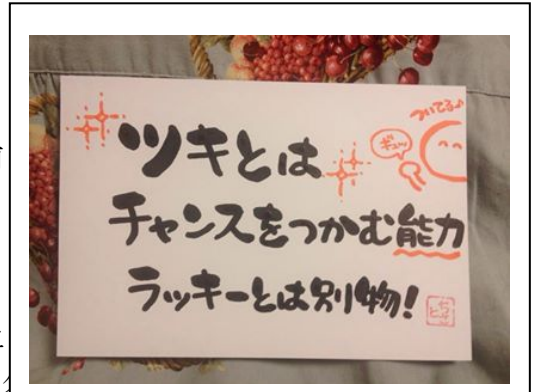


「船井幸雄先生を偲ぶ」②

1. 「ツキ」ということ

右掲はFacebookにあった記事です。シンプルで腑に落ちる言葉です。実は、船井幸雄先生が亡くなられたという報道が1月21日に流れました。私は、早速、前号(367号)を作成し追悼の意を表すという事ができました。もちろん、事前に367号から370号まで予定原稿として書き上げていました。従って、ホームページを担当している社員に緊急割り込みの相談をして原稿を書き上げたのです。

この原稿は、船井先生は「つき」という事を前号で書きましたが、この記事のタイミングよく使えるチャンスと思い追加の原稿を書くことにしたのです。まあ、「チャンスをつかむ能力」の一つのカタチを示すという意図で書いています。少し軽い内容になりますが、ご容赦ください。



2. 「ツキ」をつかむ

右掲は、よく使うイラストです。「つき」のあるイラストと言えます。まず、「つき」って、何だろうかと考えたいと思います。単純に言えば、うまく展開するという状態が「ついている」と表現しますので、「うまく展開」することが「つき」と考えます。では、「つき」をつかむのか、呼び込むのかという点が課題になります。

まず、「つかむ」という点では、「つきの神様には後ろ髪がないので、通り過ぎたら引き戻せない」と言われますので、このつかむタイミングが問題になります。よく、「早すぎても、遅すぎても、ダメ」と言われますように、どんぴしゃりの絶妙のタイミングが重要なのです。よく、情報提供してくれる友人がいるのですが、タイミングのよい方とそうでない方もいらっしゃるのです。タイミングのよい方は、いつもタイミングがよくて、逆に、悪い方は、いつもタイミングが悪いという傾向があります。



次に、「呼び込む」という点では、私は、常にタイミングよく情報を頂いており、心の中で「サンキュー」と感謝して活用するようにしています。「鏡の法則」と言いますが、「呼び込む」という吸引力は、実は、活用する能力にあると思っています。情報の神様みたいな存在があって、活用すれば、神様が喜ばれて、どんどん、タイミングのよい情報を下さるのです。Facebookの記事も、船井先生を偲ぶというタイミングで活用できるようになったのです。これは、「ラッキー」であり、「つき」ということであれば、必ずしも、「ラッキーとは別物！」とは言えないと考えるのです。

まあ、「言葉のパワー」をつける為に、「ラッキーは別物！」と断言したのですが、その辺は、ご愛嬌と思います。確かに、「別物」という要素もあり、前述のように、「つきをつかむ」には、幸運だけでは解釈できない要素が多いのです。右上の「好きな事」＝「仕事」というイラストのように、「好き」⇒「つき」が生まれると考えています。「好き」だからこそ「楽しく」仕事が出来て、傍から見ても「楽しさ」が伝わってくるので、よい循環になるのです。

従って、私は、何事もやる限り「楽しそう」にするように心掛けています。「楽しそう」だから、嫌なことや気の乗らない時でもスイッチ・オンできるのです。そうなんです、やる限りは、まず、「楽しそう」に振る舞うのです。私は、「この仕事は楽しくできる」と何回も自分に呪文をかけます。勝手に、スナラ法と呼んでいますが、呪文を繰り返す事でイメージをハッキリさせる時間を稼ぐのです。

3. 「3ワード法」で「つき」を表現

「天地自然の理」の中に「向陽性の原則」がありますが、森羅万象の全ては「明るい」を求めて向かうという事なのです。私は、長嶋さんと王さんの違いで説明しますが、現役時代の成績という事では、圧倒的に、王さんの方が上であり、国民栄誉賞も王さんの方が早かったのですが、例えば、TVのCMで見れば、長嶋さんの方が多くて、国民の支持を受けているのです。この差は、王さんは実直な方で隙がない感じがするのですが、長嶋さんは、あの軽い声で軽い表現で話され、松井選手との指導でも「さっきのあの音」という風な表現で、理屈ではない、感覚的な面で表現されるので印象的なのです。

じゃ、現実「つき」を付加する為に、長嶋さんの表現法をどのように取り入れるかがポイントになります。「言葉のパワー」と言いますが、「言葉」が心に響けば、人は行動に移せるのです。これを小売業のPOPでは、3ワード法という手法で実践するようにしています。よく、引き合いに出すのが「うまい、早い、安い」という吉野家さんのCIです。「うまい」という「つかみ」で始め、「早い」という特性をつき、「安い」という「おち」で締めるのです。リズムカルな響きと共に「納得」という説得力が働くのです。仮に、最後が「うまい」でも「早い」でも不十分なのです。

何事もアピール・ポイントは数多く持っている筈なのですが、多すぎるとは、他人は分からなくなるのです。従って、「価値ポイント、3つつ！」と言って、3つに絞るように指導しています。3つなら、過不足なく伝えることができ、また、受け止める方も負担が少ないのです。この「3ワード法」を磨く必要があるのです。「ワーディング」とも呼びますが、「言葉のパワー」が高まるのです。

4. Enjoy&Funの心で「人望」を得る

「ツキとはチャンスをつかむ能力」という記事からスタートしましたが、「つかむ」為には、集まってくるように工夫する必要があるのです。「ツキのある情報」が集まるには、普段から「ツキある情報」を活用して発信しておく必要があるのです。「活用するクセ」がポイントになるのです。このクセを身につけるには、堀場さんの「Enjoy&Fun」がピッタリと考えています。

まず、Enjoyは「楽しむ」ということで、仕事などを楽しく行う事であり、Funは、楽しむの中に、悪戯という遊び心を加えて「ちょっとした違い」を楽しむことが重要なのです。このFun(悪戯)がキーポイントになると考えます。「こんな風にしてみようか」という工夫を取り入れることなのです。「工夫」をするから、いつもと違った結果になり、うまくもまずくも結果になって、次への展開になってくるのです。いつも同じでは単調になって「マンネリ」で沈滞するしかないのです。脱「マンネリ」の入り口が「悪戯」という遊び心とすれば、誰でも可能性があると思うのです。

(株)こめたろうの森さんの言葉に「習慣は才能に勝る」というものがありました。悪戯・工夫するクセ(習慣)が「才能」を磨くのだとも言えるのです。「楽しく工夫する」(Enjoy&Fun)を実践すれば、立ち足かかる「壁」を突破する能力が身に付くので、才能がどんどん磨かれるのです。真の「人の成長」は、この「壁突破力」に裏打ちされた「人間力」なのです。つまり、「人望」が高まるのです。「人望」こそ「つき」の最大の要素だと思います。決して、財産の多さではないように思います。少なくとも、金がなくても「人望」を得る事は可能なのです。